

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

授業のポイントを明確にしたことで、実験をする意義や操作方法について理解している生徒が増えた。話し合い活動が活発になったことで、自身の考えを表現したり、友人の考えに多く触れさせたりすることができた。

(2) 課題

どの学年も、観察・実験から、考察する力が低い。実験を多く取り入れつつ、生徒自身が行った実験結果から考察を行う機会を確保するなどして、思考・判断・表現の向上を図る。また、小テストやワークを通して、計算問題にも多く触れさせ、計算に対する苦手意識を払しょくする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全観点が目標値に大きく達していない。特に記述の問題がとれていない。		
第2学年	全観点が目標値に達していないが、昨年度より、目標値に近づいた。学力上昇傾向がみられる。	知識・技能と主体的に学習に取り組む態度の正答率が目標値に達していない。思考・判断・表現はわずかに目標値を上回っている。	
第3学年	校内平均が大幅に上昇し、全国平均を上回った。目標値にはわずかに達していないが上昇傾向がみられる。	全観点が目標値に達していない。特に、知識・理解の問題の正答率が目標値を大幅に下回っている。	全観点が目標値にわずかに達していない。特に、知識の問題がとれていない。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を6ポイント程度下回っている。物質・エネルギー領域の正答率が特に低く、全体として基本的な知識が定着していない。	目標値を大幅に下回っている。実験の結果を読み取り考察する力が定着していない。	観察、実験には楽しみながら取り組んでいる。実験から学習に対して結びつけられていない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を5ポイント程度上回っている。分野によるばらつきが大きく、既習事項を丁寧に復習できていない分野で正答率が大きく下がっている。	区の平均と同程度である。実験結果から考察することは少しずつできるようになっているが、計算力がかなり低い。	観察・実験には意欲的で、実験中はもとより、考察も自ら率先して書いている様子が見受けられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を上回ったが目標値にはわずかに達しなかった。エネルギーと地球の分野の正答率が低い。	目標値を3ポイント程度上回った。記述や活用の正答率も目標値上回り、実験の考察などを通して少しずつ思考力が身についてきた。	実験観察や日々の授業に意欲的に取り組んでいる。手順の確認や考察も積極的に行っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、重要な事項を明確にする。単元ごとの小テストや復習問題を実施し確実に基礎・基本の定着を目指す。	仮説実験の過程を明確にし、実験計画に見通しをもたせる。自ら実験を計画する時間を確保し、実験計画力を育む。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、生徒の興味・関心を高める。 また、観察・実験を多く取り入れ、学習意欲の向上を図る。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎回の授業で、重要事項を明確にしていく。既習事項と関連付けた授業を展開し、過去に扱った単元との関連性をもたせる。単元ごとに小テストを行い、確実な知識の定着を図る。	自ら実験を計画する時間を確保し、既習事項の確認をしつつ、先の見通しを持たせた実験を行わせることで、思考力の向上を図る。自身のデータを用いた考察や計算を行わせ、思考力の向上を図る。	身近な事物・現象と学習内容を関連づけ、調べ学習を取り入れることで、生徒の興味・関心を高める。 また、観察・実験を多く取り入れ、学習意欲の向上を図る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本に重点をおく指導を行う。昨年度に引き続き、単元ごとに小テストを行いつつ、復習プリントも活用し、確実な知識の定着を図る。	実験を昨年度以上に多く取り入れ、自らの実験結果をもとに、考察する時間を設ける。年度末には問題演習の時間を確保し、引き続き思考力の向上を図る。	既習事項を活用した調べ学習を取り入れ、身近な問題を探究する力を養うとともに、理科を学ぶ有用性を伝えていく。

